

# 秋経協・二水会 第107回 例会

開催日・令和4年12月14日(水) 会場・アルバートホテル 参加者18名

## 特別講演 『史跡秋田城について』

講師：秋田城跡歴史資料館 神田 和彦 氏



秋田城跡歴史資料館  
主席主査 神田和彦氏

二水会第107回12月例会が12月14日(水)16:00よりアルバートホテルで開催された。

12月例会は、講演を労務関係以外のテーマで開催しており、今回は史跡公園として整備が進む秋田城跡の成り立ちから発掘から分かったことを約1時間に亘り、秋田城跡歴史資料館主席主査の神田和彦氏から講演頂いた。

開会の挨拶で廣嶋代表幹事が「わが社の清酒「高清水」の名は、秋田城があった高清水岡に由来している。また、城跡施設をネーミングした製品も発売している。秋田城について知る絶好の機会であり、楽しく学びたい。」と挨拶し講演となった。

神田主席主査が、はじめに「秋田には何もないと言うが、学術的に誇れるすごいものが3つある。玉川温泉、男鹿半島、そして秋田城である。今の時代こそ、地域の歴史を知る必要があるのではないか。秋田は古代(奈良・平安時代)から継続して都市機能が存在し、今日の秋田市まで続いている。このような都市は九州の福岡と秋田だけであり、大いに誇りをもってほしい。」と述べ、その後、秋田城の成り立ち、規模、役割、発掘の出土品から分かったこと。878年に起こった夷俘の反乱「元慶の乱」などについて詳しく解説いただいた。講演で会員が驚いたのは、漆文書と古代水洗トイレの発掘から得られた調査結果で、漆文書に記されていた古代(奈良時代)の地名が現在も存在していること。また水洗トイレ跡調査から、秋田と渤海国とのつながりが判明し、トイレの様式が当時最も進んでいた設備であったことであった。

今回の講演では、特別に出土した籌木(ちゅうぎ)〔昔のトイレットペーパー〕や築地塀で使用されていた瓦の実物を見せていただき、秋田市内の中心部にありながら、秋田城について知る機会が少なかった会員からは、「いま史跡公園として整備が進む秋田城跡を散策し、古代のロマンに触れてみたい。」との感想も出され、好評の講演会であった。

次回、第108回2月例会は 2月9日(木)春闘労使交渉対策講演会を開催する。



秋経協・二水会 元代表幹事の佐藤俊雄さん（後列中央）ご勇退。ご尽力に感謝申し上げます。